

国際・交流委員会 基本方針（案）

国際・交流委員会 委員長 古賀 智博

1 昨今、高齢化や人口減少、地域格差による都心部への人財の流出などの影響により、國
2 外からの就労者や技能実習生が増えている中、正しい他国文化の理解やコミュニケーションの在り方を改める機運が高まっています。グローバル社会における多様性を受け入れ、
3 地域に住み暮らす人びとにとって、明るい豊かな社会となるよう我々が地域社会と密接な
4 交流を深め知識を醸成していく必要があります。

5 まずは、諸先輩が1985年から継続してきた姉妹J Cである社團法人台南市新營國際青年商會との交流が本年度で38年目を迎え、堅固なる友情をさらに深めるために、互
6 いのLOMで意見交換を行い、新たなる交流の発展を追求することに果敢に挑戦します。
7 そして、文化、歴史、価値観の違いを、広く深く理解し合える国際交流とするために、一
8 般社団法人佐賀青年会議所メンバーに積極的な参画を促し、国際意識を高める機会を創出
9 します。さらに、国際化が進む地域社会においても先導的挑戦をしていくために、身近に
10 住み暮らす在留外国人の方とレクリエーションを通じた交流事業を行い、グローバルなパ
11 ートナーシップを築く第一歩とし、地域社会の活性化につなげます。また、国内開催であるASPAC堺高石大会での近隣諸国との交流がどのようになされているのか、メンバー
12 の理解を深めるために、日本青年会議所等から発信される情報を集約した周知活動を行い、
13 積極的な参加を促し、友情を深め青年会議所活動の一助とします。

14 我々佐賀青年会議所はこれまで以上に国際社会・地域社会への貢献と交流を通じた活動
15 を行い、一人ひとりの違いを柔軟に受け入れ、地域の方々と共に皆が手を取り合い、多様性
16 を活かした佐賀を創造していき、「修練」「奉仕」「友情」の三信条のもと、「銀鱗躍動」の
17 ように地域で勢いよく輝き続ける団体を目指します。

18

19

20 [事業計画]

- 21 1. 新營J C訪問交流の企画・運営（9月）
- 22 2. シニア総会の参加者支援（1月）
- 23 3. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 24 4. 例会の企画・運営（3月・11月）
- 25 5. ASPAC参加者への支援（6月）
- 26 6. 河川清掃（10月）
- 27 7. JCI世界会議参加者への支援（11月）
- 28 8. 会員拡大 拡大目標 委員会8名（全体40名）